第５学年「家庭科」学習指導案

授業者　岡部　雅子

２月２１日（金）４階Ｂ室　１０：００～１０：４０　話し合い１０：５５～１１：４５

１　単元名　「見通しを持って作ろう―きんちゃく袋作り―」

２　単元について

子どもたちは，一学期に針と糸を使って基礎縫いの仕方を学び，初めての作品となるフェルトの針さし作りに挑戦した。針と糸に初めて触れる子どもも多かったが，興味をもって取り組み，糸通し，玉どめ玉結び，なみ縫い，ブランケットステッチ，作品作りへと学習を進めた。子どもたちは授業で回を重ねるごとに上達し，全員が自分の針さしを完成させた。

本単元では，ミシンを用いての作品作りに挑戦する。作品はきんちゃく袋に統一するが，中に入れるものは自分の裁縫箱とする。本校では，裁縫箱を一括して購入せず，家庭にある道具を有効活用し，必要な道具のみの準備をお願いしている。ひとりひとりの裁縫箱の大きさや形が異なるため，それにあわせた型紙作りから始めたいと考えている。

また，袋は日常生活のあらゆる場面で用いられるが，意外に子どもたちはその構造をよく理解していないことが多い。そこで，平面の布からどのようにして立体的な袋を作り出すのかを実感としてつかませるため，単元の冒頭で，自分の裁縫箱を入れる袋を新聞紙で作ることを試みる。物作りは，順番が大切である。教師の説明通りに作業を進めていきがちな活動を，少しでも子ども達の主体的な活動とするために，この活動を通して製作の手順の見通しをもたせることもできると考えた。

不織布を用いて試し作りをする方法もよく取り上げられる。不織布は，半透明で中が透けて見えるよさや，中表にしてホチキスなどで留め，ひっくり返して袋の形にする等，布での製作に近いイメージを持つことができる利点がある。しかし今回は，どうすれば一枚の布が袋になるのか，というところを，思う存分に試行錯誤させたいと考え，新聞紙を用いることにした。

３　学習指導計画（本時１時間目／全１２時間）

(1) 両口しぼりの袋を新聞紙で作ってみることを通して，袋の構造と製作のおよその手順をつかむ。新聞紙の袋を基に型紙を作る。（２時間…本時 1/2）

(2) 布の裁断をする。ミシン各部の名称や操作するときの注意点を知り，ミシンの空縫いの練習をする。（２時間）

(3) ミシンの糸のかけ方，直線縫い，返し縫いの練習をし，袋の両わきを縫う。（４時間）

(4) 口の部分にしつけをかけてミシンで縫う。（２時間）

(5) ひもを通して仕上げ，学習のまとめをする。（２時間）

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

・新聞紙で裁縫箱を入れる袋を作る経験を通して，袋の構造を理解する。

・袋作りの手順のおよその見通しをもつ。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　新聞紙とはさみとセロテープを用いて，各自の裁縫箱に大きさに合った袋を作る。 ２　作りながら気づいたことを互いに発表し合い，袋の構造や製作の手順等について理解を共有する。	・基本的な約束事を示した後は，子どもたちの試行錯誤の中から分かったこと，失敗の経験を大切にさせる。 ・どうしたら，思い通りの袋になるのか，について考えながら活動させる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

家庭科で物を作ることの意味は何か。